

令和7年度 第1回台東区障害者地域自立支援協議会 議事録

開催日時		令和7年6月30日（月曜日） 9:30～11:20
開催場所		台東区役所 10階 1001会議室
出席者	委 員	酒本委員長、坂本副委員長、曾雌委員、徳堂委員、藤田委員、桐木委員、風間委員、佐藤委員、村木委員、井上（太）委員、篠塚委員、江口委員、岩本委員、尾本委員、井上（健）委員
	その他	[障害福祉課] 庶務担当係長、総合相談担当係長 [保健予防課] 精神保健担当係長 [松が谷福祉会館] 庶務担当係長、障害者デイサービス担当係長
	事務局	[障害福祉課] 庶務担当係長、職員3名
欠席者		島村委員
傍 聴		・一般傍聴 1名 ・令和7年度東京都相談支援従事者現任研修受講者 4名
議 題		1 開会 2 新委員の委嘱及び紹介 3 議事 （1）就労部会報告 （2）相談支援部会報告 （3）くらしの部会報告 （4）障害福祉課より ①令和6年度台東区における障害者虐待にかかる相談・通報・届出件数について ③台東区障害者実態調査の実施について ※②「地域生活支援拠点の拠点コーディネーターの配置について」は、次回以降の報告へ変更。 4 その他 5 閉会

配布資料	資料1	令和7年度台東区障害者地域自立支援協議会委員名簿
	資料2	台東区障害者地域自立支援協議会設置要綱
	資料3	令和7年度第1回台東区障害者地域自立支援協議会(就労部会)報告
	資料4	令和7年度第1回台東区障害者地域自立支援協議会(相談支援部会)報告
	資料5 /別紙	令和7年度第1回台東区障害者地域自立支援協議会(くらしの部会)報告
	資料6	令和6年度台東区における障害者虐待にかかる相談・通報・届出件数について
	資料8	障害者実態調査の検討状況について ※資料7「地域生活支援拠点の拠点コーディネーターの配置について」は配布せず。

— 議 事 内 容 —

(1) 就労部会報告

資料3／別紙 「令和7年度第1回台東区障害者地域自立支援協議会(就労部会)報告」

委員長	令和6年度の超短時間雇用の講演会について、内容を簡単に共有いただきたい。
委員(報告者)	今は20時間未満も可能となっているところ、もっと短い時間からスタートできる取り組みをやっているモデル地域の先生にお越しいただいた。働きたいが10時間以上働くのは難しいという人でも数時間、週1回からでも大丈夫なのかという質問や、実現のために地域の中でどのような取り組みをしていけばいいのかという質問などが出た。
委員長	今回話していただいた検討テーマの中で、一番大切だと思ったのは、それぞれの事業所では解決できない課題を抽出して地域課題にして集約していくという部分である。なかなか表には出ないが、実は共有してみるとお互いに困っていたということもある。これはぜひ各部会で広げるといいと思う。
委員	ハローワークに確認したい。台東区内の障害者について求職登録の現状はどのようなになっているか。

委員	実は今年度はかなり求職者が減少している。詳しくは分析中であるが、飯田橋でやっていた中央ブロックビジネス会という面接会がなくなったのが一番の原因として言われている。それがなくなったことで、地方からの求職者の登録が減っている。
委員	厚労省の発表によると、令和6年度での障害者の解雇は9,312名で令和5年度の約4倍となっている。 台東区内の状況はどのようなになっているか。
委員	まだ分析はしていないが、もし何かつかめればまた報告する。
委員	就労についてはいろいろと言われている中で、台東区内には多くのホテルが立地している。そこを雇用先として、一般企業の就労ということで、アピールしていくような役割をハローワークに担ってもらえないだろうか。
委員	そういった求人部門と連携して、障害者雇用についても改善することが必要だと思っている。
委員	聴覚障害者の就労はどのような動きになっているのか。
委員（報告者）	聴覚障害者は実際に相談にも来ている。登録者の中には聴覚障害者の方もいれば難聴の方もいる。 台東区ではないがホテルに採用になった方もいて、そこではホワイトボードが用意されていて、お客さんに声をかけられないようにするようなマークもある。職員が休憩中に手話を教えてもらう場を設けていて、理解のある企業も多いように思う。
委員長	今あった手話の話について、ろう者を受け入れる組織が地域にあるのかという背景も影響すると思う。また、手話を使う人の第一言語は手話であり、なかなか日本語を読んだり文章にすることが苦手だと分かった。言葉を文字にして表示するアプリなどもあるが、間違いが多いこともあるので、そういうことも考えていけるといいと思う。
委員（報告者）	区内のホテルに関して、就労支援室の登録者でうまくいっているケースがあ

るので紹介したい。

身体 of 脳梗塞の方であるが、階段を利用しないフロアでやることを一緒に探してもらって仕事に繋がった案件がある。

委員長

そういううまくいっているところを見学するなどして、いい方向に繋げていていただきたい。

委員

就労支援ガイドブックの見直しについて、ホームページからもアクセスしやすくなって、利用者にも好評だった。

今後は定期的に見直すなどの計画はあるのか。

委員（報告者）

それはやっていかないといけないと思っている。

委員

この就労支援ガイドブックはどこにどのように配布しているのか。

委員

企業にも配布している。

委員

配ってもらうだけではなく、ハローワークからもアドバイスやサポートをいただけるとさらによくなると思う。

委員（報告者）

もともとハローワークが困りごとを抱えている状況で、その際によく見たら昔のままだなということが分かり、ガイドブックを見直した。

委員長

ハローワークから企業にも配っているということだったが、もう一步踏み込んで、今度は企業からお話をいただくといいように思う。企業の方が見せ方を分かっていたり、事業のここが分かりづらいという言葉をいただけたりするのではないか。

配布先についても色々と検討していただきたい。

委員

就労系だけではない、通所先の選択肢のガイドブックなどもあれば分かりやすい。

委員

他にもこういうサービスもあるということが分かる 1 ページにまとめたようなものがあればいいかもしれない。

(2) 相談支援部会報告

資料4／別紙 「令和7年度第1回台東区障害者地域自立支援協議会(相談支援部会)報告」

委員長	短期入所の問題については、かなり重要な課題ではないかと思うが、やはり現場でどうこうできるものではないので、このあたりは区で考える必要があると思う。 1つ目のインフルエンザの件についてだが、インフルエンザにり患したため、短期入所の最中だが自宅に帰り、自宅で対応できたということか。
委員	たまたま近くに家族がいたから対応できたというような、ぎりぎりのところだった。
委員長	短期入所を空けておくと収入面で厳しくなるが、緊急で必要な部分もあると思う。このあたり区としてどのように考えているか。
委員	短期入所の課題は区議会でも取り上げられ、様々な話が出ている。今のところショートステイは改装工事を今年度に行い、フロム千束で2床増やすこととしている。 来年度策定する障害福祉計画のための実態調査も今年度は行うため、そういったところから部会の皆さんの意見も合わせ、ニーズを確認していく。施設整備となるため、簡単にはできないが、計画立ててやっていけるように準備を考えているところである。
委員長	親の高齢化に伴い需要が増えているということだが、具体的にどのような需要が増えているのか。
委員(報告者)	短期入所を望んでいるというよりも、1か月間利用できるグループホームの利用を望んでいるという内容が部会員よりあった。そのため、世代によっても利用したい内容が異なるのではないかという話だった。
委員	1泊や2泊というのが台東区では多いが、台東病院では4泊5日以上で受け入れてくれるのでそれは利用されている。
委員長	確かに1泊のために荷物を全部持ってまた次に移動するというのは負担があると思うので、本当に緊急の時に入院をしてしまうという検討も必要になるのではないか。ぜひ区でこのあたりも考えていただきたい。

	もう1点教えてほしい。相談支援が介入していない状態でショートステイを希望するというのはどういう状況なのか。
委員（報告者）	親御さんの突然の通院などから突発的に本人の暮らしの場を探さなければいけないとなったときに、相談支援事業所が関わらないとまず何からやっていけばいいのか分からないということで、この課題を挙げたところである。
委員長	それは相談支援事業所側が困るのか、それとも本人たちが困るのか。
委員（報告者）	どちらかというとも本人たちが困っている。
委員長	では是非本人たちへのこういうところがあるというPRを考えていただきたい。 ただ2ページ目の（4）にあるように、新規の相談をなかなか受けられないということもある。相談収益が無ければ、事業所の維持もできないという深刻な問題になるため、こういった問題を上げていくのは重要であり、考えていただきたい。
委員	ケース1については、服薬調整ということだが、20代のころは必要でも、ある程度年齢を重ねると、この調整が軽くなるということも考えられないか。
委員	個別性の高い内容であり、年齢によって変わることもあれば、薬が合わないということが出ることもある。
委員	例えば実際に経験した話では、知的障害者が子どものころに癲癇を起こして、その1回だけであるにも関わらず、家族が気にした結果、60歳を過ぎても服薬を続けているということがあった。医者はずっとそのまま薬を渡しているわけだが、服薬に対するリスクもあるのではないか。
委員	これも個別性の高い話であり、多分医師もアセスメントしながら処方している。発作がないことを確認しながら出していることもある。
委員	あともう1点、ケース3に危険性を感じてしまう。お母さんは虐待にはあっていないのか、あるいはお母さん側に精神的な要因があるのか。

委員	虐待の確認が取れないことから、高齢者虐待としては扱えないということになった。それ以前は自分たちも関与していなかったため、把握しきれない部分もあり、この段階では既にやりとりできない状況だった。
委員	実際にあった話で、ある女性の母親があるとき統合失調症の診断を受けたが、そのお母さんも統合失調症、その兄弟も5人のうち4人が統合失調症だった。家庭内の問題もあるだろうが、そういう危険性も見ておく必要があるのではないか。
委員	診断名がきっちりついていなくても、なんとなく傾向があるという場合もある。地域や医療機関とも情報共有しながら、生活を見ていく必要がある。
委員	やはり成育歴や家族歴は大事で、何かおかしいなと思って本人の親戚も見たら、家族全員が精神の人だったということもあるので、全体像を見ないと実態が分からないと思う。
委員長	利用しているサービスを見ると、訪問介護など外部から人が入る内容であり、お母さんも概ね寝たきりでサービスが入っているようでもあるので、そのあたりは連携しながらやっていくことが重要になると思う。今後も継続して見守りしていただきたい。
委員	家族にも同じように統合失調症が出るというのは10%ほどであり、残り9割の方は同じではない。ただ、障害者の周りに支援の必要な方がいないか見るということは、予防につながる可能性もあるというところで、とても大事だと思う。

(3) くらしの部会報告

資料5／別紙 「令和7年度 第1回台東区障害者地域自立支援協議会(くらしの部会)報告」

委員長	今回のアンケートの活用方法、回答者への還元について検討していることはあるか。
委員(報告者)	部会の中でも、アンケートを取って終わりではなく、それを反映することが気になるという意見があった。 今回のアンケートも各事業所長に結果を送っているが、事業所長で検討して

そのまま下におろしているところもあれば、経営・雇用に関する問題は経営層で考えるということから、上層部へのフィードバックで終わっている事業所も実際にはある。

ただ、今後については当事者に反映される形を取れるようにやっていきたい。

委員長

せっかく現場の職員が答えてくれても、よりよくするということに結びつかなければお金と労力をかけただけになってしまうので、そのあたりは是非検討してほしい。

2つ目の項目にあがっている重度化については、地域での生活がなかなか難しい方が入所していくということか。

委員（報告者）

グループホームにずっと入っていて、年齢を重ねることで今までできていたことができなくなってくるというイメージである。ADLが低下してくると、少しの段差でも転んでしまって骨折に繋がってしまうケースもあった。

福祉用具を使いながら介助もできるが、本人の身体状況が大きくなってきていると感じている。

委員長

バリアフリーになってきてはいるが、それでも狭いところでなかなか支援していくのも難しいこともあると思う。事例検討だけでなく、こういうことが起きているということをまた次回以降あげていただけるといいと思う。

委員

ここでもの部の部会は相談支援部会から発生した部会であることを再確認したい。暮らしの実態に合わせて、今の福祉サービスの提供が間に合っているのか、その提供の仕方がこれでいいのかを見ていく必要があるということで、相談支援部会から暮らしの部会が生まれた。

高齢化、重度化も含め、以前は施設から地域への移行というのが一つのスローガンになっていた。それが高齢化により、台東区で住めなくなるという状況もあるのではないかと感じる。当事者としてはここで暮らせるのか、生活ができるのかが大いに重要なことだと思う。台東区の福祉を変えることが協議会の役割であると学んでいるが、改めて台東区ではこの問題をどう考えるか教えてほしい。

委員

これまでグループホームで生活されていた方が生活されにくくなってくる、そうした障害者の高齢化については区としても非常に大きな問題だととらえている。昨年度からは、高齢と介護を共同で、障害の相談の方や介護のケアの

方に集まっていただき意見交換する場を作っている。
そういったところで、対応が非常に難しいが、区としても課題として取り組んでいきたいと考えている。

委員

人員確保という部分で、工賃の現状維持などを目指す中でも影響が出て、サービスの幅が広がらないという悩ましい状況である。
どこも人が限られていて、色んな所で同じ人とばかり顔を合わすのも悩ましく思う。
相談支援部会からも支援員の確保という問題がある中で、自分たちも就Bとして日中のサービスを提供しており、利用者に何か起きると相談支援事業所にとりあえず言おうか、グループホームに電話しようかと、人員の余裕がなく頼りがちになってしまっている。
ただ、そのバランスで成り立っている部分も多く、どの部会でも人員確保が重要になっていると思う。

委員

こちらも人員がなかなか入らず、入っても定着しないというのが課題になっている。入職者に対して教育時間もかかる中、一方では利用者に対してサービスの質を上げていかないといけないということで、支援する職員に対しての支援で職員間が疲弊している。

委員長

頼りがちだと思うのではなく、連携だと思って情報を提供していけば、相談支援の方からも見えてくるものもあるのではないかな。お互いに情報連携というイメージでやっていただけたらいいと思う。

委員

自分たちのグループホームでは25年経っても同じメンバーであり、重度化が課題となっている。本人が重度化・高齢化すると、当然親御さんも高齢化している。親御さんがやっていた金銭管理などもどうやって主導権を移行していくのかという課題を実感している。

委員長

利用者さんの生活を近いところで見るとするのは重要だと思うので、これからは大切にしてほしい。

委員

入っても定着しないということについて、一般でもそういう流れがあるのか。

委員

なかなかやはり人が入らない。定着の方がなかなか難しい。特に新卒の若い方

である。

委員長

働くということに対する感覚も変わってきている。転職してキャリアアップするということも多いかもしれない。働くということについて考えていかなければならない時期にはなっていると思う。

(4) 障害福祉課より

①令和6年度台東区における障害者虐待にかかる相談・通報・届出件数について

資料6 「令和6年度台東区における障害者虐待にかかる相談・通報・届出件数について」

意見無し

③台東区障害者実態調査の実施について

資料8／別紙 「台東区障害者実態調査の実施について」

委員長

今回の抽出数がそれぞれの障害によって異なるのは手帳の所持者数によるものか。

報告者

(障害福祉課)

障害区分の約1割で抽出している。

委員長

視覚障害者に対してはどのようにアンケートを行うのか。

報告者

(障害福祉課)

調査票は他の障害の方と同様に郵送するが、職員が電話連絡し、自身で回答できるか確認し、もしくは職員の訪問による回答も可能だと案内する。

委員長

設問数も多いため、最後の方は疲れてくる。無理して1回で答えなくてもいいなど、工夫が必要だと思う。

この調査結果は自立支援協議会にも共有されるのか。

報告者

(障害福祉課)

共有させていただくが、どこでやることになるかは検討する。

4 その他

特段なし。